

若狭ネット

第105号 2007年 4月 4日

発行：若狭連帯行動ネットワーク

代表連絡先 福井：「止めなくちゃ！

げんぱつ」連絡会(〒915-0235 越前市不老町6-36 山崎方 TEL0778-42-3630) 大阪：日高原発に
反対する大阪の会(〒583-0005 藤井寺市惣社1-1-21 久保きよ子方 TEL/FAX 0729-39-5660)

ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/> E-mail: wakasa@gaea.ocn.ne.jp

志賀 1号の臨界事故隠しなど電力会社の責任を追及し
美浜 3号事故の真相を糾明しよう!

能登半島地震を踏まえ、

原発耐震設計の抜本的強化を求めよう!



不正の報告書を発表し
謝罪する電力会社幹部
(毎日新聞2007.3.31)

「定期検査短縮による原発重大事故と 原発震災」を問う つどい

4月15日(日)午後2時～5時

《お話》

美浜町 松下照幸さん

神戸市 橋本真佐男さん



場所：ヒューマインド (JR環状線 芦原橋 駅下車 徒歩7分)

あきれかえるデータ改ざん、隠蔽の体質

3月30日電力会社12社は、過去のデータ改ざんや法手続違反などの総点検結果を国の原子力安全・保安院に報告しました。国は報告を検討し、1か月以内に評価し処分を決めるとしていますが、原発で臨界事故が起きているにもかかわらず、隠蔽を繰り返す電力会社の体質をどのように「改善」させようというのでしょうか。

国が「安全を最優先した」原発推進をエネルギー政策の柱として打ち出してきたにもかかわらず、全くひどい「安全運転」でした。この現状をしっかりと見据えて、国は深刻に反省すべきです。「原子力立国計画」を撤回し、脱原発へと転換すべきです。

電力会社は、原発発電コストが高つくため、何としても長期連続運転を押し進め、原発の経済性を確保しようと躍起になっています。そのため、定期検査期間の短縮を電力各社が競い合い、定検短縮のためには、何事もなかったようにデータのごまかし、隠蔽を行うのが、日常茶飯事になっていたのです。

志賀原発の臨界事故や女川原発の原子炉緊急停止事故でも、会社ぐるみで、隠蔽し、国の検査員も隠蔽を見抜けなかったという有様です。

関西電力の美浜3号事故でも、事故の6日前、8月3日に配管減肉に関する管理指針を保安管理規定に盛り込んだという事実、事故の1年2ヶ月前、2003年6月に日本アームから減肉管理の点検箇所倍増を提案された若狭支社が具体的データの提示を求め、7月頃には破断部位を含む未点検箇所700箇所が報告されていたという事実が新たに浮上しています。

このような事実は、関電の原発責任者が、事故の起こる前から事態の深刻さを知っていたという極めて重要な事実であると私たちは

考え、追及してきましたが、これには関電は、「一切答えません」という無視の姿勢です。

美浜3号事故の真相が解明されないまま、関電は幕引きをねらっています。これでは、遺族や重軽傷を負わされた下請け作業員の怒りは収まりません。私たちは、この問題について、粘り強く追及していきます。

能登地震は、「原発震災」の危険を教えている！

3月25日9時42分に能登半島西岸付近の10キロメートルでマグニチュード(M)6.9の地震が発生しました。海底から半島につながる隠れた断層が震源でした。

志賀原発建設時の耐震設計では、このような地震は想定されていませんでした。今回の地震は、M7クラスの地震がどこで起きても不思議でないことを改めて示しました。

また、国は、能登半島北部で震度6弱以上の揺れが30年以内に起きる確率を全国最低ランクの「0.1%未満」と推定していました。どんなに低い確率でも起こるときは起こってしまうというのが自然の力であることをはっきりと示しました。地震の確率論的リスク評価の欺瞞性もこれで暴かれたのです。

私達が、「原発震災」から逃れるためには、1日も早く原発を止めていくことしか、道はありません。

「定期検査短縮による原発重大事故と原発震災を問う」つどいを4月15日(日)にヒューマインドで行います。福井県美浜町からは、松下照幸さんを迎え、「原発で働く下請け労働者の怒り」をお聞きしたいと思います。神戸市の橋本真佐男さんには、「阪神淡路大震災の体験と能登半島地震をふまえ「美浜原発周辺の活断層と地震」のお話を伺います。

緊急ですが、お集まりください。また、これからの原発を止める運動についても意見交換したいと思います。

4月15日(日)午後2時～5時

「定期検査短縮による原発重大事故と 原発震災」を問う つどい に参加を！

《お話》

美浜町 松下照幸さん

神戸市 橋本真佐男さん

場所 :ヒューマインド

(JR環状線「芦原橋」駅下車歩7分)



4月29日(日)

午後1時半～4時半

繰り返さないでチェルノ

ブイリ・21周年の集い」

ベラルーシの子どもたちに

保養支援を！！

場所 :西宮市大学交流センター・大講義室

(阪急西宮北口駅北側すぐ、ACTA西宮・東館6階)

編集後記

- ・ 私たちは、検察庁に一縷の望みを託し、事実の解明、責任の追及を厳正に立件して下さい」というハガキ行動をしました。ご協力ありがとうございました。しかしながら、検察は、企業の責任を追及することもなく、11名の死傷者をだしながら、公判による事実解明すら行わず、交通事故と同じ略式起訴の罰金だけですますという信じられない幕引きをしてしまいました。これでは、遺族や重軽傷の方々の無念ははれません。この社会の矛盾を感じざるを得ません。東電、東北電、北陸電等で、データの改ざん、隠蔽などに、原発管理責任者が直接関与していたと次々と問題になっている中で、関電は、美浜3号事故についての真相を明らかにしないまま原発を平然と動かし続けています。何も語らない企業に対して恐ろしさを感じます。
- ・ 能登半島地震が、起こりました。志賀原発を建設した北陸電力の想定外の地震が起こりました。原発の周辺の地表に現れた活断層をどんなに調べて、実際には、想定外の地震が起こることをはっきりと私たちに教えてくれています。「原発震災」が実際に起こる前になんとしても原発をやめていかなば、取り返しがつかないことを能登半島地震は、私たちに教えてくれています。
- ・ 能登半島地震が起こり、志賀原発1・2号が動いてなかったのも、一安心しました。しかし、多くの家や道路が破壊され、死傷者もでました。被害に見舞われた皆さんの心中を察すると、本当に不安と心配が充満し、心が痛みます。珠洲市の知り合いに連絡すると、神社の周りにある石の柵やお墓石が大きな揺れで倒れたとのことでした。その後も大きな余震が続いています。本当に心配です。